

漁海況予報事業（抄録）

赤羽 光秋・田村 真通・中田 凱久
鈴木 史紀・佐藤 晋一・涌坪 敏明
兜森 良則

調査目的

沿岸沖合漁業に関する漁況、海況の調査研究の結果に基づいて予報を作成するとともに、漁況、海況情報を迅速に収集、処理、広報することにより、漁業資源の合理的利用と操業の効率化を図り、漁業経営の安定に資する。

調査内容

1. 調査期間 昭和57年4月～昭和58年3月
2. 調査海域 青森県沖太平洋，日本海，むつ湾および津軽海峡
3. 調査船 開運丸 299.56トン 770馬力
東奥丸 134.47トン 550馬力
4. 調査項目および方法

(1) 海況調査

試験船により、漁海況予報事業で定められた定点において各層観測を実施した。

(2) 漁況調査

スルメイカ、サンマ、イワシ、サバ、ブリ、マグロ、ヤリイカ等の主要魚種について、漁協または水産業改良普及員の協力を得て資料を入手した。

(3) 漁場一斉調査

太平洋における、イカ漁場一斉調査に参加し、試験操業を行って、予報作成の根拠とするデータを得た。

調査結果

1. 海況

日本海での対馬暖流の勢力は、全般に平年並みかやや弱めに推移し、後半やや強めとなった。一方、太平洋における津軽暖流の勢力は、3・6月がやや強めの他は平年並に推移した。

2. 漁況

青森県漁業の中核であるアカイカ、スルメイカ、ヤリイカの漁況についてみると、アカイカでは、流網による水揚げの増加により、56年並みの水準になったものの、釣による水揚げの落ち込みが大きい。

スルメイカでは、日本海沖合からの水揚げは56年並みとなったものの、本県沿岸域からの水揚げの減少、特に太平洋、津軽海峡の減少が目立つ。しかし、日本海沿岸域からの水揚げは、56年の約2倍と好調に推移していた。

ヤリイカでは、日本海側でやや漁があったものの津軽海峡側での不振が目立った。

その他の魚種では、本県全域でマイワシが急増し、逆にマサバが激減したことが特徴的である。

（なお、詳細については、昭和57年度漁況海況予報事業結果報告書を参照して下さい。）